

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/04

ギリシャのデフォルト懸念後退でリスク回避の動きも後退

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	材料目白押しながらも豪雇用統計に注目 予想レンジ: 85.20 ~ 88.10 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	NZのGDPは地震被害を超えられるか 予想レンジ: 65.60 ~ 68.60 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	主要国の株価動向に左右されやすい 予想レンジ: 11.70 ~ 12.10 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

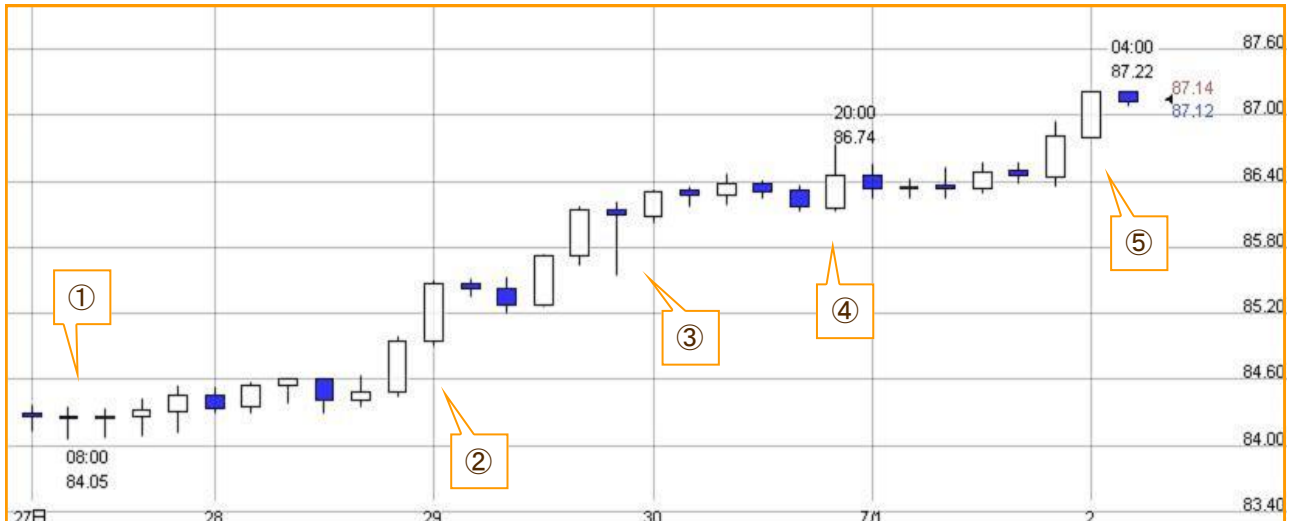


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 6/27~7/1の主な推移



6/27 Monday	ギリシャの債務不安を背景に時間外のNYダウ平均先物や日経平均株価が下落すると、豪ドル/円は一時84.05円まで下落。しかし84円ちょうど付近では底堅く推移すると、その後ゆるやかに上昇した(①)。
6/28 Tuesday	ギリシャ議会において緊縮財政案が可決される見通しが高まった事を背景にNYダウ平均が寄り付きから値を上げると、豪ドル/円は85円台へと上昇した(②)。
6/29 Wednesday	ギリシャ議会にて緊縮財政案の投票が開始され、財政案が賛成155、反対138で可決された事が伝えられると、市場では目先の材料出尽くしとの見方からユーロ/円が急落。豪ドル/円はユーロ/円の下げに連れて85.55円まで下落した。しかしその後、ギリシャ議会での緊縮財政案の可決を受けて同国のデフォルト懸念が後退した事を手掛かりに、NYダウ平均が上昇した。また米原油在庫が前週比で438万バレル減少した(予想:150万バレル減少)ほか、ガソリン在庫も減少した事が伝えられると、原油相場が上昇。これらを背景にリスクを積極的に取る動きとなり、豪ドルは一時86.34円まで上昇した(③)。
6/30 Thursday	米6月シカゴ購買部協会景気指数が事前予想を大きく上回った事や、ギリシャ議会にて緊縮財政案の関連法案が可決された事を背景にNYダウ平均が一段高となると、豪ドル/円は一時86.74円まで上昇した(④)。
7/1 Friday	米6月ISM製造業景況指数が事前予想・前月共に上回る強い内容となったことを背景に、米国の景気減速懸念がやや後退してNYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円はその後6月1日以来となる高値87.22円をつけた(⑤)。

AUD / JPY

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

今週の見通し

先週、ギリシャ議会にて緊縮財政案が可決された事を受け、市場ではギリシャのデフォルト懸念が後退し、リスク回避の動きが後退した。今週の豪ドル/円はこの流れを引き継ぎ、堅調な推移が予想される。

5日には豪準備銀行(RBA)のキャシュターゲットが予定されているが、市場では今回は政策金利を据え置くとの見方が主流となっており、市場の関心はその際に発表される声明に集まっている。仮に声明にて早期利上げを示唆する内容が含まれる場合、豪ドル/円は買いが先行する事も考えられる。

また、7日には豪6月雇用統計の発表が予定されており、こちらの方が重要視されそう。前月は新規雇用者数の伸びが予想を下回ったことを受けて豪ドル/円が下落しており、今回は雇用状況の回復が見られるかがポイントと見られる。もし新規雇用者数を中心に雇用の伸びが示されれば、豪ドル/円は買いで反応すると見られる。ただし、雇用の伸びの鈍化、もしくは減少が示された場合、市場は豪ドル売りでの反応を示す事が予想される。

更に、8日には米6月雇用統計の発表が予定されており、こちらにも市場の関心が集まりそう。もし米雇用統計に対して楽観的に見方が広がる場合、NYダウ平均の上昇を受けて豪ドル/円は買われやすいと見られるが、反対に雇用の伸びの鈍化など米雇用状況に対して悲観的な見方が広がる場合、豪ドル/円には下げ圧力がかかることも考えられる。加えて米雇用統計の先行指標と目される、6日の米6月ISM非製造業景況指数や7日の6月ADP全国雇用者数にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 85.20~88.10 円)

NZD/JPY

NZドル/円 6/27~7/1の主な推移



6/27 Monday	ギリシャの債務不安を背景に時間外のNYダウ平均先物が下落した事や、NZ5月貿易収支が6.05億NZドルの黒字となり、予想(10.00億NZドルの黒字)を下回った事から、NZドル/円は一時64.52円まで下落した(①)。
6/28 Tuesday	ギリシャ議会において緊縮財政案が可決される見通しが高まった事を背景にNYダウ平均が寄り付きから値を上げると、NZドル/円は65円台後半へと上昇した(②)。
6/29 Wednesday	ギリシャ議会にて緊縮財政案の投票が開始され、財政案が賛成155、反対138で可決された事が伝えられると、市場では目先の材料出尽くしとの見方からユーロ/円が急落。NZドル/円はユーロ/円の下げに連れて66.08円まで下落した(③)。しかしその後、ギリシャ議会での緊縮財政案の可決を受けて同国のデフォルト懸念が後退した事を手掛かりに、NYダウ平均の上昇に連れてNZドル/円は反発した。
6/30 Thursday	米6月シカゴ購買部協会景気指数が事前予想を大きく上回った事や、ギリシャ議会にて緊縮財政案の関連法案が可決された事を背景にNYダウ平均が上昇すると、NZドル/円は一時66.92円まで上昇した(④)。
7/1 Friday	米6月ISM製造業景況指数が事前予想・前月共に上回る強い内容となったことを背景に、米国の景気減速懸念がやや後退してNYダウ平均が上昇すると、その後NZドル/円は一時66.97円まで上昇した(⑤)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

上昇要因 (NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因 (NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

先週、ギリシャ議会にて緊縮財政案が可決された事を受け、市場ではギリシャのデフォルト懸念が後退し、リスク回避の動きが後退した。今週のNZドル/円はこの流れを引き継ぎ、堅調な推移が予想される。

今週7日、NZ第1四半期国内総生産(GDP)の発表が予定されている。今年2月にNZを襲った地震の影響が懸念される中、本稿執筆時点での事前予想では前期比が+0.3%と、昨年第4四半期(+0.2%)をわずかに上回る見通しとなっている。今回のGDPについて、市場予想通り、もしくはそれを上回る結果となる場合、NZドル/円は買われる展開が予想される。

また、8日には米6月雇用統計の発表が予定されており、こちらにも市場の関心が集まりそうだ。もし米雇用統計に対して楽観的に見方が広がる場合、NYダウ平均の上昇を受けてNZドル/円は買われやすいと見られるが、反対に雇用の伸びの鈍化など米雇用状況に対して悲観的な見方が広がる場合、NZドル/円には下げ圧力がかかることも考えられる。加えて米雇用統計の先行指標と目される、6日の米6月ISM非製造業景況指数や7日の6月ADP全国雇用者数にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 65.60~68.60円)

ZAR/JPY

ランド/円 6/27~7/1の主な推移



6/28 Tuesday	ギリシャ議会において緊縮財政案が可決される見通しが高まった事を背景にNYダウ平均が寄り付きから値を上げると、ランド/円は上昇した(①)。
6/29 Wednesday	ギリシャ議会にて緊縮財政案の投票が開始され、財政案が賛成155、反対138で可決された事が伝えられると、市場では目先の材料出尽くしとの見方からユーロ/円が急落。ランド/円はユーロ/円の下げに連れて11.75円まで下落した(②)。しかしその後、ギリシャの緊縮財政案の可決を受けてリスク回避の動きが後退した事を手掛かりに、NYダウ平均が上昇すると、ランド/円は反発した。
6/30 Thursday	米6月シカゴ購買部協会景気指数が事前予想を大きく上回った事や、ギリシャ議会にて緊縮財政案の関連法案が可決された事を背景にNYダウ平均株価が一段高となると、ランド/円は一時11.92円まで上昇した(③)。なお、18時30分に発表された南アフリカ5月生産者物価指数は前年比+6.9%と予想(+7.1%)を下回り、21時に発表された南ア5月貿易収支は10億ランドの赤字と事前予想と一致する結果が伝えられたが、いずれも市場の反応は薄かった。
7/1 Friday	米6月ISM製造業景況指数が事前予想・前月共に上回る強い内容となったことを背景に、米国の景気減速懸念がやや後退してNYダウ平均が上昇すると、ランド/円は6月3日以来となる高値12.00円をつけた(④)。

ZAR/JPY

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

先週、ギリシャ議会にて緊縮財政案が可決された事を受け、市場ではギリシャのデフォルト懸念が後退し、リスク回避の動きが後退した。今週のランド/円はこの流れを引き継ぎ、堅調な値動きが見込まれるものの、引き続きランド/円は主要国の株価動向に左右されやすい展開が予想される。その株価を動かす材料として、8日に予定されている米6月雇用統計に注目したい。もし市場にて、米国の雇用状況に対して楽観的に見方が広がる場合、NYダウ平均の上昇によりランド/円は買われやすいと見る。ただし、雇用の伸びの鈍化など米雇用状況に対して悲観的な見方が広がる場合には米株の下落が予想され、ランド/円には下げ圧力がかかることも考えられる。加えて米雇用統計の先行指標と目される、6日の米6月ISM非製造業景況指数や7日の6月ADP全国雇用者数にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:11.70~12.10円)

経済指標カレンダー (7/4~7)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/4			米国休場(米国独立記念日)		
(月)	10:30	○	(豪) 5月小売売上高 [前月比]	+1.1%	—
	10:30		(豪) 5月住宅建設許可件数 [前月比]	-1.3%	—
	16:15		(スイス) 5月実質小売売上高 [前年比]	+7.5%	—
	17:30	◎	(英) 6月PMI建設業	54.0	—
	18:00		(ユーロ圏) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+6.3%
7/5	10:30	○	(豪) 5月貿易収支	+15.97億AUD	—
(火)	13:30	◎	(豪) RBAキャシュターゲット	4.75%	—
	17:30	◎	(英) 6月PMIサービス業	53.8	53.3
	18:00	○	(ユーロ圏) 5月小売売上高 [前月比]	+0.9%	-0.1%
		○	(ユーロ圏) 5月小売売上高 [前年比]	+1.1%	-0.6%
	23:00		(米) 5月製造業受注指数 [前月比]	-1.2%	+1.0%
7/6	14:00		(日) 5月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	103.6	106.1
(水)			(日) 5月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	96.2	99.8
	19:00		(独) 5月製造業受注 [前月比]	+2.8%	-0.1%
	21:30		(加) 5月住宅建設許可 [前月比]	-21.1%	+5.0%
	23:00	◎	(米) 6月ISM非製造業景況指数	54.6	53.5
7/7	07:45	◎	(NZ) 第1四半期GDP [前期比]	+0.2%	+0.4%
(木)		◎	(NZ) 第1四半期GDP [前年比]	+0.8%	+0.5%
	08:50		(日) 5月機械受注 [前月比]	-3.3%	+3.0%
			(日) 5月機械受注 [前年比]	-0.2%	+10.8%
	10:30	◎	(豪) 6月新規雇用者数	+0.78万人	—
	10:30	◎	(豪) 6月失業率	4.9%	—
	16:15		(スイス) 6月消費者物価指数 [前年比]	+0.4%	—
	17:30	○	(英) 5月鉱工業生産 [前月比]	-1.7%	+1.0%
	17:30		(英) 5月製造業生産高 [前月比]	-1.5%	+1.0%
	19:00	○	(独) 5月鉱工業生産 [前月比]	-0.6%	+0.5%
	20:00	○	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.25%	—
	21:15	◎	(米) 6月ADP全国雇用者数	3.8万人	7.0万人
	21:30		(加) 5月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30	◎	(米) 7/1までの週の新規失業保険申請件数	42.8万件	—
	23:00		(加) 6月Ivey購買部協会指数	69.1	69.3

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (7/8)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/8	08:50		(日) 5月経常収支	+4056億円	+2780億円
(金)	08:50		(日) 5月貿易収支	-4175億円	-7670億円
	15:00		(独) 5月経常収支	+88億EUR	+70億EUR
	15:00		(独) 5月貿易収支	+109億EUR	+110億EUR
	17:30		(英) 6月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+3.4%	+3.3%
	20:00	○	(加) 6月失業率	7.4%	7.4%
	20:00	○	(加) 6月雇用ネット変化	+2.23万人	+1.00万人
	21:30	◎	(米) 6月非農業部門雇用者数	+5.4万人	+8.3万人
	21:30	◎	(米) 6月失業率	9.1%	9.1%
	23:00		(米) 5月卸売在庫 [前月比]	+0.8%	+0.6%
	28:00		(米) 5月消費者信用残高	+62.47億USD	+50.00億USD
	未定		(日) 6月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	36.0	40.0
			(日) 6月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	44.9	—

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。